



どっこいしょ

Dokkoisyo

2017.5.19 (金) 第30号



沖縄で考えたこと

… 海と空と土と、戦闘機の爆音と …

平和の礎とコバテイシの木→



39回生の沖縄修学旅行が無事終了しました。昨年度は熊本地震の影響で行き先を東京方面に変更。今年度も大陸の不穏な動きも気になるころでしたが、予定通りの行程で2泊3日の修学旅行を実施できました。明石市内の中学校は、7校が沖縄、4校が北九州、2校が東京という予定です。先週末から沖縄は梅雨入りし、雨の中の活動が多かったようです。本校は晴れ時々曇りで、かなりの蒸し暑さでした。

今回は、校長として2回目の修学旅行。沖縄へは16年前に当時勤務していた中学校で生徒を引率して以来の機会となりました。当時の那覇市内はモノレールの工事が進んでおり、いたるところで工事中だったことが思い出されます。沖縄の姿を目の当たりにして感じたことは、高層ビルが増え巨大なイオンもできており、「大都会に変貌しているのだな」という印象を強く持ちました。

生徒たちとともに平和学習の地を回りましたが、どの場所でも“修学旅行のしおり”を活用し、課題に取り組み、実物資料、手記、映像展示などをしっかりと見ながら記録や感想を書いている姿には“学ぶ”姿勢がしっかりと見られました。39回生の学年通信“夢・燦燦”に生徒の感想が記載されておりますので本校HPからご覧ください。

さて、2日目の朝の出来事。ホテルの前にあるビーチで“海遊び”をしているときです。少し肌寒い中でしたが、元気よく遊ぶ生徒の歓声をかき消すように、米軍の戦闘機が上空に現れ、旋回して嘉手納の基地に下降していきました。5分間隔くらいでしょうか、何機も何機も同じ軌跡をたどりながら上空を通過していきます。大きな爆音で始めは何事かと思いましたが、次第に慣れてくるものです。これが沖縄の現状であり、今の姿なのだと感じました。平和な暮らしのすぐそばに、すぐ頭の上に最新鋭の戦闘機が飛んでいるわけです。逆に地面の下には、戦時中の強烈な戦闘の歴史が地層のように積み重なっているのだなと感じました。

■句の短歌 一首

砂遊び 浮輪に水かけ ビーチバレー 海の声消す 空の爆音 (ビーチタワー前にて)

沖縄に行くということは、沖縄の歩んできた歴史を知るとともに、現状を知り、そこに暮らす人たちがいて、これからもこの地で生きていくことを考える必要があるということです。校長として、16年前よりもさらに踏み込んで考えさせられた3日間となりました。

3日目の朝、テレビの画面では「昨夜、嘉手納基地の上空で夜間のパラシュート降下訓練がありました。周辺自治体として中止要請をしたけれども、強行した米軍。このような訓練は過去に例のないことです。」と現地の声を伝えていました。

■句の短歌 一首

ひめゆりの生徒の声に古の 生きた証と命の重さ
(ひめゆり祈念資料館にて)

■句の琉歌 一首

コバテイシの木陰 風と海の声 平和の石礎に 永遠の安らぎ
(平和祈念資料館にて)



▲ビーチで海遊び

※琉歌は八八八六の形式で作し、沖縄民謡の調べで歌うことができます。
※コバテイシの木は、沖縄の街路樹としてたくさん植えられています。葉が大きく、日陰をつくってくれます。平和の礎にもたくさんのコバテイシがありました。

礎

ソ、いしすえ
石と音を表す礎（ソ：しく
意）とからなり、柱の下にし
く石、土台の意味を表す。



▲平和祈念資料館 東の海岸

部活動等の記録

【陸上部】
第70回明石市陸上
競技大会
神戸 翔悟
男子400m 1位
おめでとう！

【柔道部】
尚志杯柔道大会
二部リーグ男子団体3位

第2回東播オープン春季
水泳大会
須田 一帆
100m背泳ぎ 2位
200m背泳ぎ 2位

作品募集

創作のすすめ

- 明石市文芸祭
- ・内容
俳句、川柳、詩、随筆、
小説、児童文学の7部門
- ・募集期間
6/1~7/29
- ・詳細は国語科担当教師へ